

経営比較分析表（令和4年度決算）

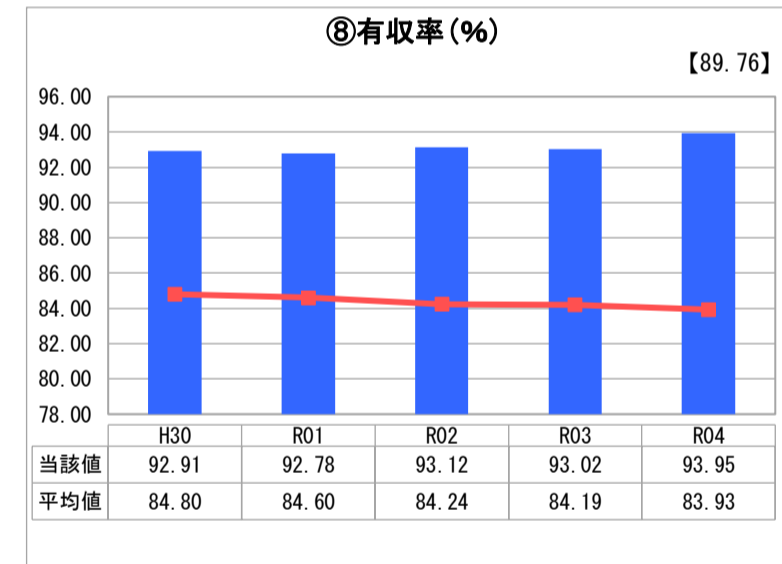
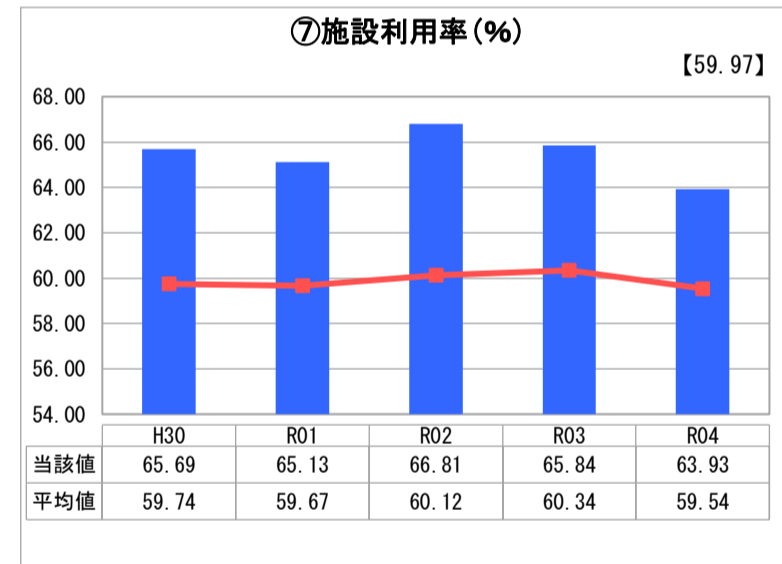
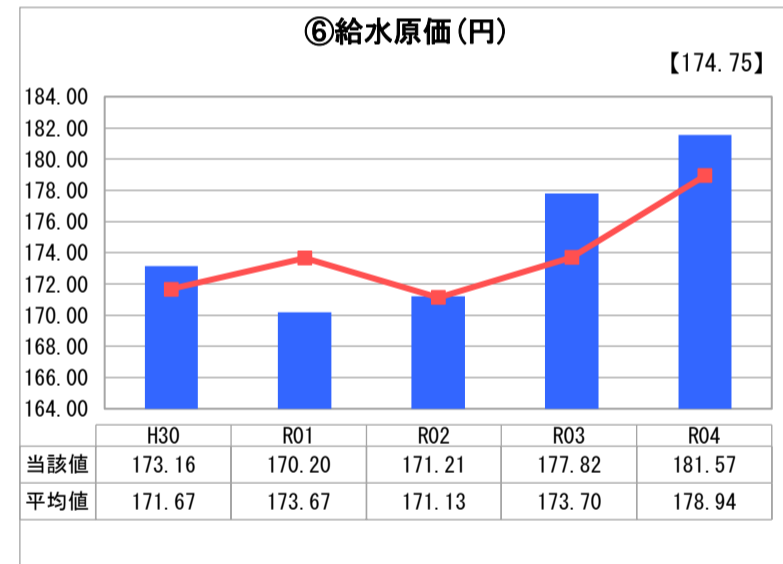
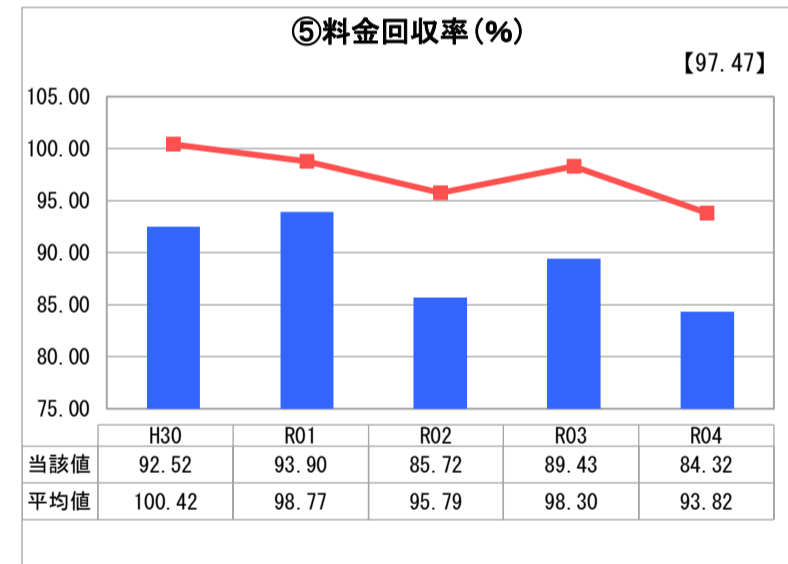
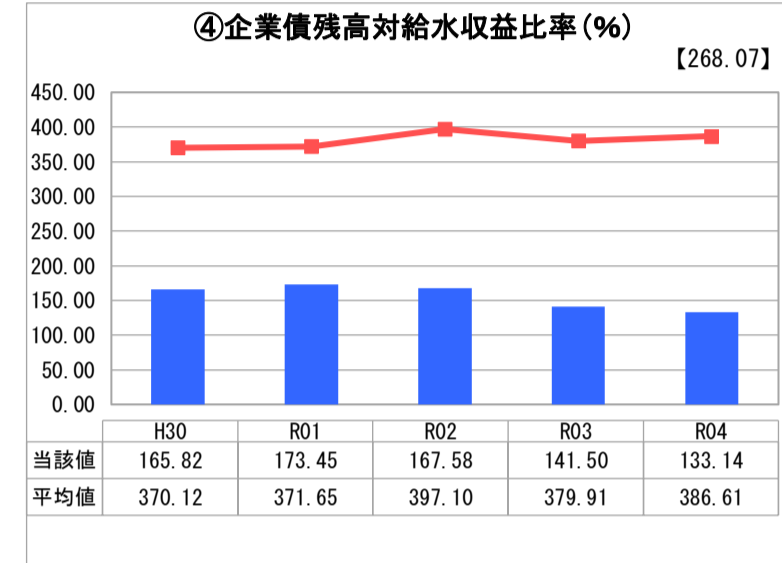
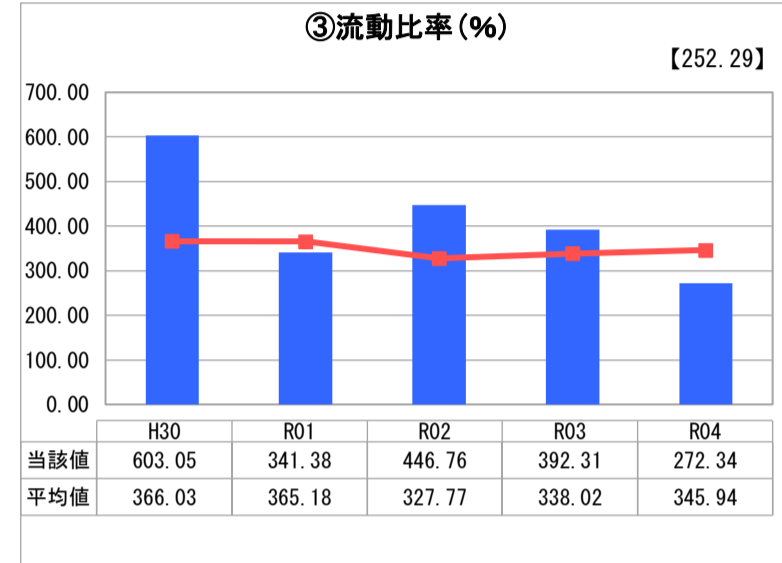
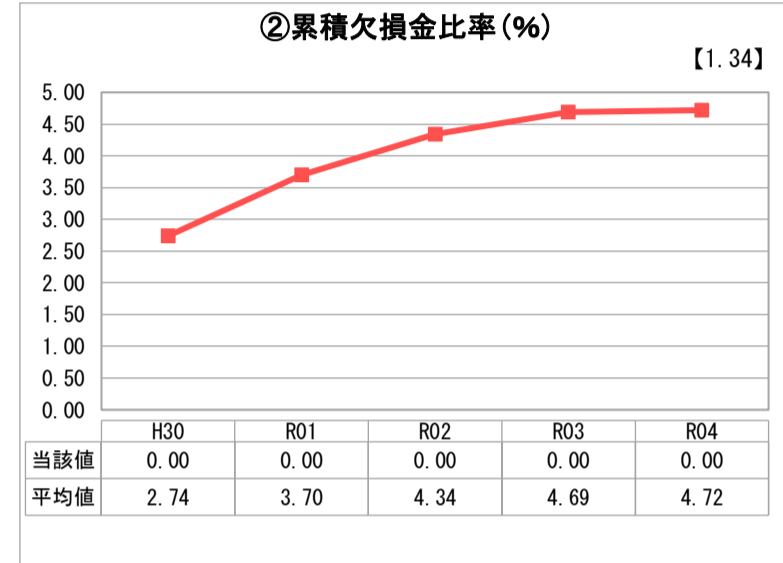
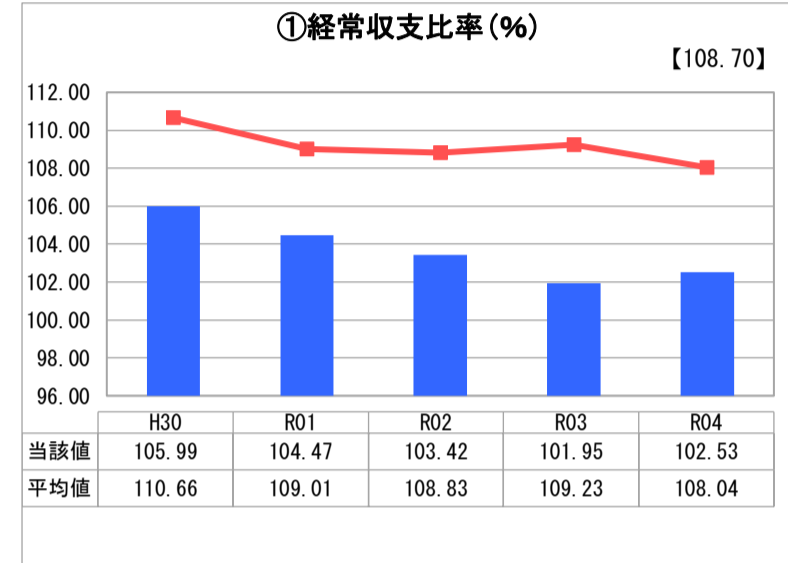
埼玉県 杉戸町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	84.88	99.96	2,805	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,168	30.03	1,470.80
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
44,096	30.03	1,468.40

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

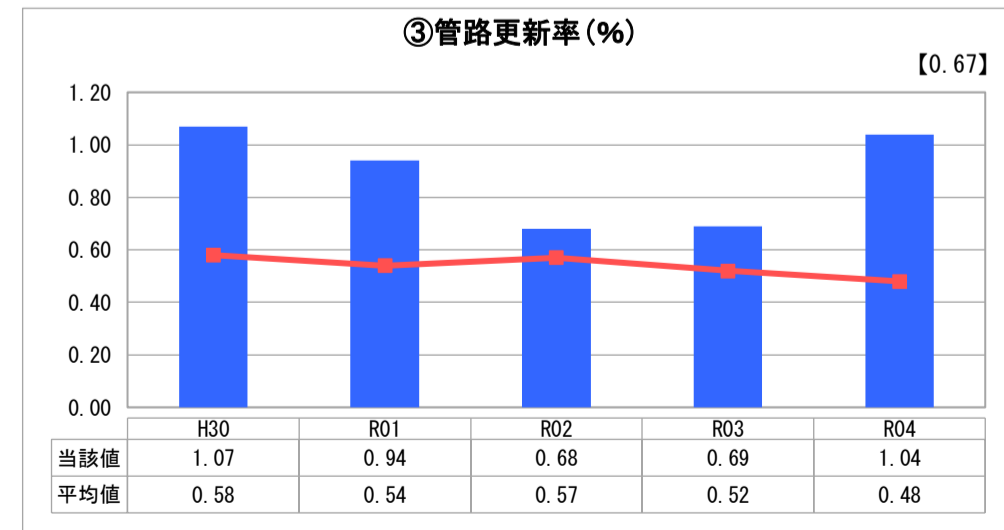
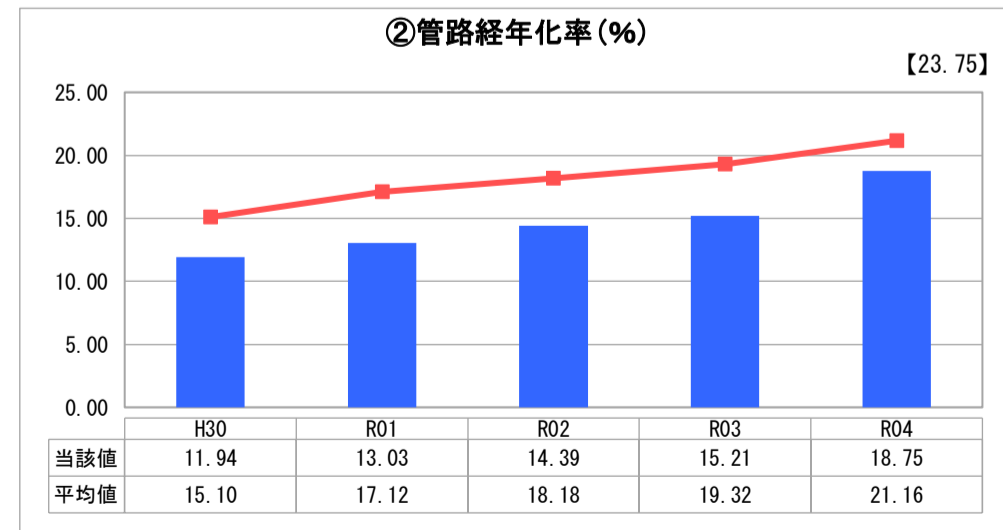
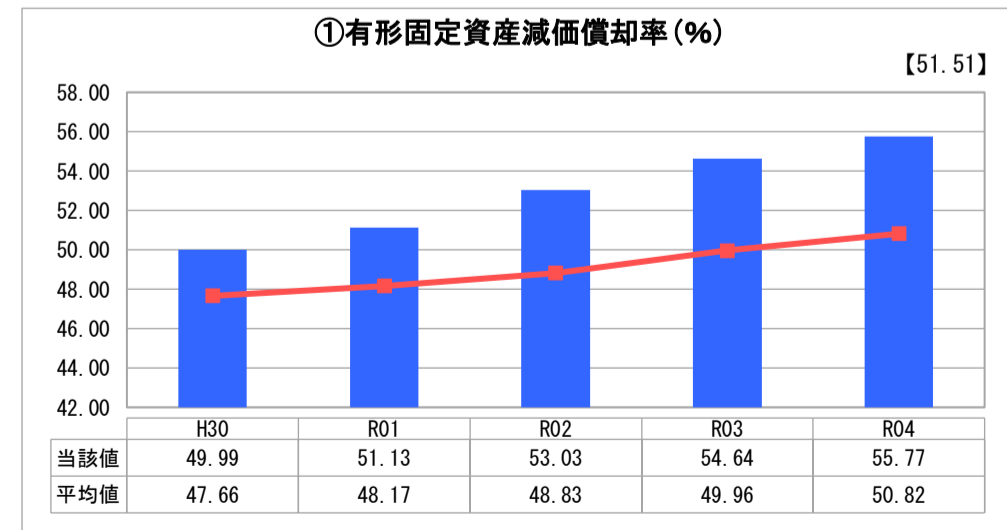
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支は赤字が続いていたが、平成26年度から会計制度の変更により黒字となっている。しかし有収水量の減少により類似団体平均値を下回っており、営業収支の改善が必要である。
 ② 純損失については剰余金の取崩で対応をしているので、繰越欠損金は発生していない。平成26年度からは純利益が生じており、累積欠損金は発生していないが、維持管理費が増加傾向にあるので、抑制に努める。
 ③ 流動比率については、平均値を上回ったが、現金預金は減少傾向にあるので、企業債を借り入れる。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は平均を下回っており一定水準を保っている。令和2年度より企業債の借入れを抑えているが、給水収益や更新事業の状況により企業債借入れも検討事項となる。
 ⑤ 料金回収率は100%を下回っている。料金収入では賅えず、他の収入に依存している。R02、R04における料金回収率の低下は水道基本料金免除(減免)による給水収益の減少が影響している。
 ⑥ 給水原価については、平成28年度より施設の更新・耐震化を計画的に実施しているため、給水原価が上昇傾向にある。有収水量は減少傾向にあるため維持管理費の改善を検討する。
 ⑦ 施設利用率は平均を上回っており、十分な水準を有している。
 ⑧ 有収率は、平均を上回っており、十分な漏水対策の効果が表れている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は年々上昇し、平均とも乖離が大きくなっており、施設や管路の老朽化が進んでいる。更新のための財源を確保し、優先順位を考慮し効率的な更新を図る。
 ② 管路経年率は平成25年度に再調査し、実績値を把握して、積極的に更新事業を実施したことで平均値を下回り続けるまで改善した。しかし、管路経年率は増加で推移しているため、耐用年数に達し更新時期を迎える管路が増加することを念頭に更新に取り組む。
 ③ 管路更新率は年度によりばらつきがあるが、施設の更新・耐震化を計画的に行っており、全体的な投資額の中で着実な管路更新を実施している。

2. 老朽化の状況



全体総括

給水原価が供給単価を上回っており、料金回収率が100%を下回っている。また、平成9年度を最後に料金の見直しを実施していないことから、今後は供給単価と給水原価の乖離及び老朽管の更新に対して企業債等の財源確保を勘案し、料金の見直しを検討する。